



# うつ れいじょう 三郷市の写し霊場

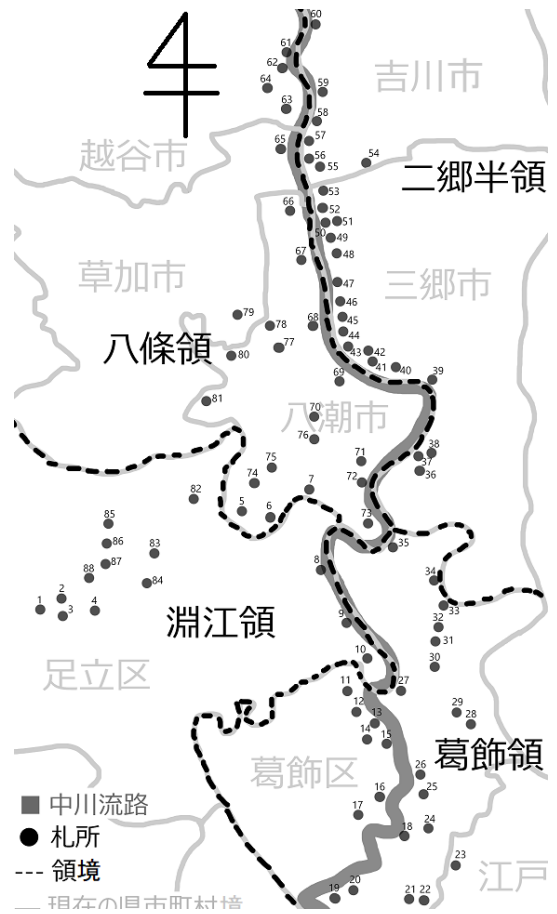
## しんしこくしかりょうはちじゅうはつかしよれいじょう 「新四国四箇領八十八箇所霊場」 とはなんだろう

新四国四箇領八十八箇所霊場は、  
1 番札所である西新井大師総持寺  
(東京都足立区) などが願主となっ  
て、天保12年(1841年)に開設  
した霊場といわれています。開設年  
は、霊場の案内図(現在でいうところ  
のガイドマップ)が版行された年や、  
各札所にある石柱の設立年から推測  
されています。

霊場の名前が示すように4つの領  
にある寺院88か所を巡礼します。

この4つの領とは、淵江領(東京都足立区)、葛西領(東京都葛飾区・江戸川区・墨田区・江東区)、八條領(埼玉県八潮市・越谷市・草加市)、二郷半領(埼玉県三郷市・吉川市)です。

巡礼の際には、各札所の境内にある大師堂という、弘法大師空海の像を祀ったお堂をお参りします。



領：江戸時代における領域の区分のひとつです。

代官や領主の支配の単位や揚水組合など村々が結合する単位として機能していました。

霊場は、明治維新後の廃仏毀釈によって、巡礼者が減るなどして、一度<sup>すた</sup>廃れました。そこで、明治35年（1902年）、64番札所<sup>とうようじ</sup>東養寺（埼玉県越谷市）、65番札所<sup>とうぜんいん</sup>東漸院（同草加市）などの寺院、浅草の<sup>こうしゃ</sup>講社である<sup>あずまこう</sup>東講が霊場を整備し、<sup>さいこう</sup>再興しました。

巡礼していたころを知る方によると、かつては「大師めぐり」といって、リヤカーに<sup>だいしぞう</sup>大師像をのせて西新井大師から順番に札所をまわったといえます。各札所では2、3日大師像が滞在し、その間に<sup>えんにち</sup>縁日が開かれ、にぎわったそうです。しかし、交通網が整うとともに、縁日を開く場所の確保が難しくなるなどして、昭和40年頃に再び廃れてしまいました。

---

<sup>こうしゃ</sup>講社：<sup>こうちゆう</sup>講中の団体のことです。講中とは<sup>こう</sup>講を結んで<sup>もつ</sup>神仏に詣でる人々のことをさします。

講とは、寺社への<sup>さんけい</sup>参詣や<sup>きしん</sup>寄進を目的とした団体や、お金をためたり貸し借りするために組織した相互扶助の団体をさします。